

教宣 せぶん

2週間総行動を終えて

国会を傍聴しました。私たちの雇用問題が国政の場で取り上げられ、担当大臣の「企業の経営にはヒューマニズムが必要だ」という発言を生で聞きました。

損害保険協会や金融庁・地方の財務局を訪問し、東京海上日勤社が判決を守らないことを話し、「何とかして欲しい」と要請してきました。

初めて行った地方都市の街頭に立ち、そして街宣車の上から、道行く人たちに向かって、自分の言葉で、自分たちが置かれている立場や窮状を訴えました。

本社前に座り込み、会社の控訴に、そして控訴の事実を3日間も放置したことに対して徹底的に抗議しました。

歴代の全損保委員長や他労組や他団体の幹部役員の方々が、次々と本店前の街宣車の上から、私たちのたたかいを支援してくれる言葉を聞きました。また東京海上日勤経営の横暴を糾弾する鋭い批判の言葉も聞きました。

多くの仲間が地方都市や本社前に集まってくれ、私たちとまったく同じ行動をとってくれたことも目の当たりにしました。

トランペットや尺八、ほら貝を持って、私たちのたたかいに駆けつけてくれる仲間がいることも知りました。

「良く頑張った。これで仲間と懇親を深める足しにしてくれ」と志を渡してくれる先輩OBの方もいました。

ガードマンでバリケードをつくり、私たちの「雇用や生活を守って欲しい」という切実な訴えや「判決を守って欲しい」という当たり前の要請を、門前払いにするという「本店」の姿がありました。

私たちの的を射た指摘に、返す言葉がないという苦悶の表情をうかべつつも、あくまで本社指示を貫き通そうとする支店幹部の姿も見ました。

たたかい切った後の懇親会のすごい盛り上がりも経験しました。まるで青春時代のようなようでした。

この2週間総行動をたたき切った直後に、この企業の経営者が交代するという報道がメディアを通して大々的に流されました。因果関係があるかどうかはわかりませんが、今後、新たな経営者がどう法令順守という経営方針を貫いていくのか、どうCSRを果たしていくのか、どんなスタンスで私たちと接していくのか、注視していかなければなりません。しかし、経営者が誰に代わろうが、私たちはこのたたかいを通して築き上げてきた「連帯」や「団結」を拠りどころにし、自らの明日を切り拓いていきます。2週間総行動を通して、私たちのたたかう意思はさらに固まりました。ともに頑張りましょう。